

# 本能まちづくりニュース

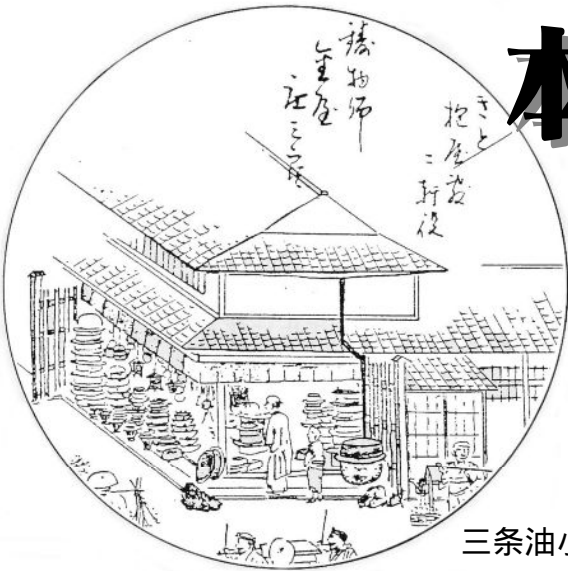
第52号 平成21年12月10日発行

本能まちづくり委員会  
委員長 杉下浩教

E-mail: post@honnoh.net

URL http://www.honnoh.net

本能まちづくりニュースのカラー版は、ホームページでご覧ください。



三条油小路町絵図より鑄物師釜屋庄三郎方

## 染めのまちのデザイナーになろう! 「親子で染め隊」第2回

まちづくり委員会主催、高倉小学校スマイル21プラン委員会と立命館大学乾ゼミの協力による「親子で染め隊」の第2回ワークショップが10月3日、本能自治会館で開かれました。今回からはいよいよ実践編。制作するのは、各自が50cm×40cm角の布に描いて染めたものをつなぎ合わせ、形やサイズの違うのれんを作ります。第2回では、班ごとにテーマを決め、各自がデザインを描く作業を行いました。大人も子供も五感と手先を使ってイメージを形にしていきます。

この日集まったのは児童20名、保護者等16名で、子供班4つ・大人班2つの6班を作りました。それぞれの班には乾ゼミ生が入り、進行とまとめ役を担ってくれました。

高倉小学校・林校長先生の挨拶の後、乾先生の司会でまずは班のメンバー同士の親睦と、絵を描くウォーミングアップを兼ねた「絵しりとり」が行われました。「想像」と「創造」、そして制限時間という課題の多いこのゲーム、メンバーの顔も性格も(!)読み取れたことでしょう。

少し緊張のほぐれたところで、まちづくり委員で印染職人の土山真典氏より、今後ののれん制作についての工程説明がありました。デザイン決定→布に下絵→糊置き→染めと進みます。下絵の線や面に、糊置き(糊伏せ)をします。糊を置いたところは染料が染み込まないので、白く残ります。「余り細かく線を描くと、かえって絵がわかりにくくなりますよ」とアドバイスがありました。

次に気分転換も兼ねて建物の外へ。来年3月のイベント時に制作したのれんを



飾るマンション等を見学しました。実際の建物を見ることでのれんの大きさも把握でき、創作意欲も湧いてきます。

そして班ごとにテーマの話し合いに移りました。四季、動物、花など各班のテーマが決まったところで、実際に描くものを具体的に絞り込んでいきます。話し合いに時間を割かれている大人班をしり目に、子供班は素直に思ったままを紙に描き始め、1人で2枚3枚とデザイン画を描く子もいました。ワークショップ終了予定時刻を30分以上経過、大人の中には時間内で描ききれなくて「宿題」となった人も。今回は盛り沢山で充実した内容のワークショップとなりました。

次回(12月5日)は、いよいよデザイン画を布へ写す「下絵」(友禅染めの職人さんと同じ青花を使用します)、そして「糊置き」という作業工程に入ります。「のれん」のイメージは更に具現化していきます。(ゆ)

第3回・4回のワークショップについては「本能まちづくりニュース53号」に掲載する予定です。

第8回  
本能ものしり講座

「本能鉄道物語」  
講師：高山禮蔵氏  
(前・鉄道友の会京都支部長)

平成21年12月15日(火)  
午後7時30分より  
本能自治会館会議室にて

## ものしり講座特別編『本能の歴史と染』 質問コーナーが盛況



今回は定期的な講座と異なり、新住民の方などに学区のことをより深く理解してもらうため染に特化した内容とし10月24日(土)午後2時より開催されました。杉下まちづくり委員長より「染めの衰退とともに町の様子もころっと変わってきていますが、ぜひ職人の技や着物のことを知ってもらいたいと思い企画しました」と挨拶がありました。講師は紋章上絵の坪内三郎氏(三文字町)、染色補正の西嶋直和氏(藤西町)のお二人です。

まずは坪内氏による「本能の歴史と染」の講義です。本能学区の歴史をスライドで要点をおさえて話されました。応仁の乱の時代に室町で近江商人が着物の商いを始めたことにより傍の本能学区に職人が住むようになったこと、堀川・西洞院川や地下水に恵まれたことも関係するとのこと。着物は細かい分業を経て完成されるので各工程の職人さんを紹介しつつ、どんな仕事(工程)をされているのか説明がありました。学区についても「堀川通を市電が朝5時頃から“がったんごっとな”と走るとそれが目覚まし代わりにやっつた。この写真の頃(昭和初期頃)はみんな着物で本能小学校へ通ってます」と生活のことや、現在越後会館の建つ場所に「龍神之池」がありコンコンと水をたたえていた

とのスライドを見て「へえー」と、また「龍神之池に飛び込んだり、金魚を放したりしたけどな」の打ち明け話には「ええっー」と声が上りました。

休憩の後は参加者から提出された質問表をもとにQ&Aコーナーです。「着物は何工程くらいで完成するのですか」「友禅とは何ですか」「悉皆屋さんて何」の質問をはじめ、「着物のタブーは」「年齢によって色・柄の制限はどんなものか」の着る人としての疑問、「どうやって保管したらいいの」「東京と京都では好みは違いますか」「外国産の着物について」などの問い「お母さんの着物の丈は直せますか」「卒業式にはどんな着物を着たらいいですか」との具体的なものまで様々な質問に西嶋氏を中心に丁寧かつ具体的に答えてもらいました。内容によっては坪内氏そして参加者であった悉皆屋の高山氏(元本能寺南町)の解説も入り大いに盛り上がりました。学生さんの「今日着ている着物のたたみ方がわからないんです」を聞いて西嶋氏によるたたみ方講習も。小さいスペースで素早くたたまれる手さばきに「さすが」と声が上がります。学生さんも一生懸命に取り組み「全然仕上がりが違う・・・」とほほえましい場面もありました。

他の人の質問を聞き「知りたいところは自分と同じようなことだった」と、ちょっと聞いてみたかったと思っていたことがわかり納得。あっという間に2時間が過ぎました。今回はスタッフを含め三十数名の和気藹々としたものしり講座でした。(あ)

## まちなかを歩くウィーク「おいでやす染のまち本能」にぎわうのれんスタンプラリー

11月15日(日)、本能館をメイン会場として「おいでやす染のまち本能」が開催されました。前日まで強い雨と風に見舞われ天気が心配されていましたが、当日は朝からすっきりと晴れて気持ちいいくらいでした。しかし気温は上がらず、肌寒い中でしたが約450名の方にご参加いただきました。今回は高倉小学校スマイル21委員会のご協力のもと、高倉小、御所南小から95名の児童と保護者の方々、また若葉会いきいきサロンから20名のお年寄りの方々の参加もあり、老若男女問わずたくさんの方に足を運んでいただきました。それでは、当日の内容をざっくりと紹介していきます。

油小路通では、毎年恒例となりました「のれんの華スタンプラリー」が行われました。古代色で染め上げられたのれん58枚が油小路を美しく染め上げました。毎年子供に人気のこの企画ですが、今年は特にいきいきサロンや特別養護老人ホームのおじいちゃん、おばあちゃんが楽しそうにスタンプラリーをしておられる姿をよく目にしました。子供からお年寄りまでたくさんの方に楽しんでいただけるスタンプラリーは今年も盛況でした。スタンプを集められた方には紅梅、若竹、杏や深川鼠などの色でデザインされたポストカードをプレゼントしました。

また、今年伝統産業の日から実施されている「のれん里親制度」に協力していただいている46軒の軒先にも、里親によってのれんがかけられました。ありがとうございました。今後とも里親の皆様によって本能が美しく染め上げられるよう、ご協力宜しくをお願いします。

そして、なんとといっても本催しの主役である「公開工房ツアー」は今年も7名の職人さんにご協力いただき、普段は見る事ができない職人さんの技や工房を拝見させていただきました。ご協力いただいた金彩加工の金彩荒木さん、手描き友禅の上木友禅さん、紋上絵の鹿島紋章さん、創作作家の高岡下絵さん、裱仕立ての多田商店さん、印染の印染工房土山さん、そして今回が初公開の引染の引染みつ子さん(古西町)、ありがとうございました。また、公開工房ツアーの参加者は16組72名、そのうち男性21名、女性34名。居住地別では京都市内38名、市外が34名でした。海外からの参加もあり、幅広い方々に楽しんでいただけました。



さらに、今回の公開工房ではいつもと一味違うツアーを行いました。「本能住民限定特別公開工房ツアー」です。これは本能にお住まいの方のみを対象としたツアーです。今までご都合が合わなかった方や比較的新しく本能に移り住んで来られた方に、通常は3つの工房を回るのに対して4つの工房と実演コーナーを回っていただき、本能住民としてより多くのことを見て知ってもらいたいというねらいの下、今回初の試みです。通常よりも回る工房が多いため人数を制限しましたが、16名の方々に参加していただきました。16名中14名の方がマンションにお住まいの方で、皆さん非常に興味を持って参加していただき本当に有意義な企画となりました。

高齢者福祉施設本能では匠の実演コーナーを設け、実際に職人さんの技を体験していただきました。京縫刺繍の片岡信さん、京野菜細工の岡田典明さん、模様糊置の福本義孝さんありがとうございました。また、和装小物の芝和ミシンさんによるふろしき販売を行いました。高齢者福祉施設の明るく落ち着いた雰囲気の中、参加者の皆さんに楽しんでいただけました。

当日の様子は、11月17日18時10分からのNHK総合テレビ『京いちにち』で“古代の色で町を彩る”と題し、本能ののれんを紹介する中で放映されました。

## 本能生まれの「区制80周年記念のれん」が中京区総合庁舎に

今年は昭和4年に中京区が誕生して80年。11月23日、高倉小学校で「中京区制80周年記念式典」が執り行われ、本能学区からも自治連合会各種団体長が出席しました。それに先立ち、中京区役所は80周年の記念ロゴマークを発表（デザインは市立銅駝美術工芸高校の小牧葉奈さんによるもの）、そのロゴマークをあしらったのれんの制作依頼が、区役所から本能まちづくり委員会へありました。11月18日、中京区総合庁舎内の区長室・保健所長室・総務室・玄関の4ヶ所に、4色ののれんが掛けられました。

皆さんが最もよく目にする区役所玄関には、ロゴマークを染め抜いた松葉色ののれんが掛けられていますので、是非間近で「本能」ののれんをご覧ください。（ゆ）



区役所玄関自動ドア間

## 学区情報

### 競技も応援も、真剣です 本能区民体育祭

10月11日、本能体育振興会(久保周三会長)主催による第57回区民体育祭が、堀川高校グラウンドで開かれました。今年度も体振役員・委員の皆さんを中心とした企画と運営による競技や抽選会が行われました。例年より気温が低く、風が吹くと肌寒さも感じられましたが、グラウンドは一日中熱い歓声に包まれました。

各世代が楽しめる競技にはマンションからの参加者が目立ち、多くの町内で世代交代がみられたようです。「三世代で支えていく体育祭にしたいものです」という平野雅左夫自治連合会会長の挨拶の言葉通り、老若男女が活躍した体育祭でした。昨年は橋浦町がお揃いの黒いTシャツで注目を集めました、今年は柳水町が紫色に

シルバーの文字をあしらったTシャツで団結力と存在感をアピールしていました。

4年前から「体育祭の若い助っ人」となっている立命館大学乾ゼミの学生さんは〇×クイズをはじめ会場準備や運営、場内放送など今年も大活躍。特にミニちゃんやゴレンジャー等の着ぐるみにちびっこ達は大喜び。またこの春からまちづくり委員会に参加している同志社大プロジェクト科目の学生さんは、長寿会の皆さんと



一緒にうどんの販売を担当しました。出身が京都府以外の学生さんは、区民体育祭という“地域の体育祭”の存在自体に驚いている様子で、今回初めて場内放送を担当してくれた乾ゼミ3回生の若草光さん(静岡県出身)は「大人の人達が真剣に取り組んでいる姿に感動しました。マンションの住民さんが来やすい環境のイベントですね」と語ってくれました。開放的な雰囲気が人を惹きつける理由のひとつかもしれません。

総合優勝は元本能寺南町、2位は元本能寺町、3位は橋浦町でした。1日中走り回られていた体振委員はじめボランティアの皆さん、本当にお疲れ様でした。（ゆ）

その他にも、ギャラリー周りで「親子で染め隊WS」の風景を展示、本能会館ではマイキモノプロデュースを行いました。今回はマイキモノの注文はなかったものの、5名の方々に来場していただきました。

そして今回はおいでやすボランティアスタッフを公募し、新しくたくさんの方にお手伝いをいただきました。まちづくり委員会、地域のスタッフや学生を合わせると、総勢70名のボランティアの皆さんにご協力いただきました。ありがとうございました。

今回の「おいでやす染のまち本能」は来場者こそ例年より減少したものの、公開工房の引染みついさん、若葉会、特別公開工房、ボランティアスタッフなど、地元の人たちの交流の幅が広がりました。これからは今回の反省を活かし、より一層力強くなったスタッフ一同協力してより良い催しになるようがんばっていきたいと思います。次回の3月21日の「伝統産業の日」にも、是非たくさんの方々に参加していただけたらと思います。

ご来場いただいた参加者の皆様、そして協力して下さった皆様、本当にありがとうございました。

(立命館大学 乾ゼミ3回生 山崎達哉)

## 京都国際ホテルに 240 名が集いました 敬老会

9月21日(月・祝)本能敬老会が今年も京都国際ホテルで開催されました。秋晴れの元、二条城の門を見下ろす二条の間に240名が集いました。

11時から木村自治連合会副会長の司会のもと平野自治連合会会長の「みなさんこんにちは」の呼びかけで「第一部式典」の開会。平野会長は自身をご両親を敬老の日にもてなされたお話をベースに「若世代の感覚ではなく、本日の会は長寿会の松村会長が実行委員長となり皆さんの立場に立って企画されました。同世代の松村さんの心づくしできっと心に響く会になることでしょう」とまとめられました。来賓の和田中京区長から「皆さんの住みやすい地域づくりに取り組みます」とご挨拶があり、続いて「愛のプレゼント」です。これは京都御池中学校・高倉小学・御所南小学校・中京もえぎ幼稚園の生徒たちが創意工夫を凝らして毎年制作し、敬老会でプレゼントされるものです。松村長寿会会長へまず高倉小学校の児童から「いつも登下校の見守り隊をありがとうございます」とのお礼の言葉が、御池中学校生徒代表からは運動会・文化祭へのお誘いの言葉に添えてプレゼントが手渡されました。今年のプレゼントは“児童作の川柳を描いたコルクのコースター”でした。松村会長の「今年もすばらしい敬老会で祝いいただき、子供さんたちにはプレゼントもい



ただきうれしいです。毎日無理なく息の長い活動を続けていきたいです。本能学区で生活できることを喜びつつ本日のお礼とします」とのお礼の言葉で第一部が締めくくられました。

ゆつくりした休憩時間のあと12時から坪内氏の司会で第二部が開宴。久保自治連合会副会長から「お年よりは地域の宝です。本日こんな大勢のかたに参加していただきうれしく思います。続く体育祭では長寿会の皆さんが“長生きうどん”を供されますのでぜひ体育祭へもおでかけください」との挨拶ではじまりました。まず本能社会福祉手話サークルの皆さんによる手話コーラスです。「川の流れるように」「ふるさと」。永い道のりを歩んでこられた人生の先輩方とともに拝聴するといずれの曲も歌詞がより心に沁み入りました。続いては京・はんなり会により「安来節」「さのさ」「越後獅子」を拝見。合間に坪内氏の「ワシも踊ろかな、と思て観てはりますね」のコメントが笑いを誘います。その後山本特別養護老人ホーム事務長による「介助でなく支援ところで皆様とともに歩んで行きたいのです」との乾杯

で会食が始まりました。テーブルのお食事は美しく、どのテーブルの皆さんもにこやかにお食事を楽しんでおられました。会食が一段落した頃NPO法人アプリの皆さんによるフラメンコ、バロックリコーダー、フォークギター演奏と続けました。金屏風を動かすくらいの激しいフラメンコに身を乗り出して見入ったり、小学校のリコーダーとは違い深い音色のバロックリコーダーの音に感心し、ギターのビートルズの音色にハミングしつつ・・・、皆さんめいめい楽しい時を過ごされていました。

仁科自治連合会副会長が「皆さんは学区の宝です。本能学区は教育力のある学区といわれます。それはここにおられる皆さんが僕たち世代にこういう教育をしてくださったことが土台となっているのです。僕たちを育ててくださったことを僕たちも次の世代へ引き継がせてもらえるのです。これからも元気で長生きしてください」と閉会の言葉とされました。

特養からの出席者テーブルでは入居者の方と支援の方がほのぼのと過ごされ、町内ごとのテーブルでは思い出話などに花が咲いて同窓会のような雰囲気となりました。人生のお手本となる皆さんの刻まれた年輪が魅力的で、お天気のみならず心も晴れ渡った一日でした。

(あ)

## 万が一に備え、実践あるのみ 総合防災訓練

10月18日、本能グラウンドにおいて本能自主防災会(倉部邦夫会長)主催による防災訓練が行われました。心肺蘇生法、AED 取り扱い方法、三角巾を使用しての止血法・応急措置法の訓練を行いました。また日ごろ防火・防災面の活動でお世話になっている本能消防分団による訓練「小型動力ポンプ操法」が披露され、今回初めて本能特養地下に設置されている防火水槽より取水、放水されました。(ゆ)



- ㊤頭部の包み方や腕の吊り方、止血法など三角巾の便利な使い方を学びました
- ㊤心臓マッサージはみぞおちより少し上をゆもし、かめよりのテンポで力強く
- ㊤消防分団による小型動力ポンプ操法の消火訓練。素早い動作は日ごろの訓練の賜物です

## 厳かに、華やかに、城南流鏑馬列 時代祭

今年、本能学区は、鎌倉時代城南流鏑馬列4番大将の当番でした。

10月22日、開智学区が担当で学校歴史博物館で準備。本能学区からは、射手武士に中村光雄さん(池須町)・弓武者に息子さんの圭吾さん・童役にお孫さんの透子さん(高倉小1年)の親子三代が出られました。騎馬の中村さんはやや緊張した面持ち。圭吾さんは鎧の重さから昔の武者に思いを馳せながら、脇に挟んだ刀の長さ感覚をつかんでおられました。透子さんはお父さんにあれこれ質問。語らう親子の姿が微笑ましかったです。講堂で着付けを終えた一行は、列を組んでグラウンドを三周。10時に学校歴史博物館を出発。松原・寺町を巡り、御所に向いました。絶好の秋晴れに恵まれた一日でした。なお、圭吾さんは、城巽学区にお住まいですが、本能体振女子バレーボールチームのイケメン名コーチです。(N村)

